

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2772402125		
法人名	社会福祉法人 美郷会		
事業所名	グループホーム 美郷		
所在地	大阪府枚方市西招堤町1253		
自己評価作成日	令和5年9月1日	評価結果市町村受理日	令和5年11月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和5年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

少しずつ外出ができるようになり、利用者さんの健康を考慮しながら実施する事ができている。個々の利用者さんのレベルに合った家事作業を提供できる。また、趣味嗜好も楽しめ、楽しく生活できる空間の提供に努めています。併設の施設の催し物などにも参加することができ、外部との交流も図りやすい環境作りに力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療福祉と社会福祉法人からなるグループで枚方市中心に26施設を運営し、地域医療・介護に総合的役割を担っている。グループホーム美郷(事業所)は、グループ中核の病院と同じ敷地に特養・老健・3グループホーム、デイ、居宅介護等と併設され、相互に有機的連携が図られている。事業所では、元気で明るい職員に支えられ、利用者9人の穏やかな暮らしが見られた。開設20年の事業所は、最近建替えた建物4階のゆとりあるスペースに広い居室、食堂・居間のほか談話室、周回できるバルコニーや広いベランダがあり、散歩や外出が自粛のコロナ禍にも余りストレスを感じさせない環境である。共有スペースには一日中利用者が集い、それぞれ昔のアルバムを見たり、手作りパズルを楽しんだり、洗濯物の片づけや食事時の準備・食器洗いを引き受けたりと生活リハビリの実践が窺えた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念及び以前スタッフで作ったグループホームの目標をフロアーに張り出し全員が周知し目標として行えるようにしている	グループの理念(美杉会グループ)と事業所の理念を策定し、それぞれ職員の名札ケースと事業所内に掲示し職員への周知を図っている。グループ理念には、医療・保健・介護を包括的に行い、地域社会への貢献の文言が、事業所理念には、その人らしい生き方や笑顔で暮らせる環境づくり、傾聴と共感を持った支援といった文言がみられる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民生委員さんから情報を頂き少しずつ地域交流の行事に参加している	地域の情報は、グループの管理者会議のほか運営推進会議での地域包括支援センター職員や民生委員から得ている。地元小学校での地域の夏祭りやグループの美郷会秋祭りで地域との交流の再開を始めているが、学校教育への協力やボランティア受け入れは、コロナ禍の影響が残り双方とも依然自粛が続いており、再開が待たれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで地域に向けてグループ内で行っている認知症勉強会などパンフレットなどで提示している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて利用者さんの状況など報告しており地域の情報なども頂きサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、現在通常通り事業所に集まり2ヵ月ごとに開催している。外部からは地域包括支援センター職員、民生委員のほか、グループの士長・主任、他グループホーム管理者の参加を得て、事業所の活動状況等の報告を行い、参加者から評価を受け要望・助言等を今後の運営に活かしている。会議議事録を都度、利用者家族等に郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村からの集まりなどの参加依頼があれば参加している	市からの通達や要請があった場合には、迅速かつ適切に対応している。地域包括支援センターとは運営推進会議を通じて必要な情報や助言を得ている。介護相談員は、コロナ禍や相談員の人材不足のため現在停止中である。コロナ感染にかかわる事項については、グループの病院が一元的に対応を行い、行政との直接的なふれあいは少ない。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内の勉強会の年間計画に入っている。また、フロア会議の場で具体的な行為を検討している	身体的拘束適正化のための指針を整備し、身体的拘束適正化のための対策検討委員会を合同で3ヶ月に一回以上開催し、フロア会議で議事内容の周知や、何が具体的な身体拘束に該当するのかなど勉強会(研修)を行っている。現在拘束の具体的事例はない。夜間に利用者の安全性を確保するため、2居室で人感センサーを利用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内の勉強会の年間計画に入っている フロア会議でも適宜話し合いをしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修参加等で情報が入ってくると会議などで発表と報告をして理解を深められるようにしている。利用者さんの中に後見人を立てている方もおられる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に沿って説明を行い、同意後、契約を交わしている。変更時には新しい契約を交わしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所された際や電話などで家族さんから意見や要望を頂き、自部署だけでなく併設している施設の事務所でも対応している。また、意見があれば会議などで公表し対応している。以前のような家族会を開催できればと考えている	家族等との電話連絡時や面会等で来所の際に意見や要望を拝聴している。家族からの意見や要望は専ら利用者に関することが多く職員が丁寧に対応しているが、運営に関わる意見や苦情はほとんど聞かれない。調査機関のアンケート回答には、散歩や外出イベント参加への要望も見られたが、法人による利用者の命を第一に考えた感染防止策にも一定の理解が得られていることが窺えた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	提案や意見などは、会議で相談と検討をし実施していき業務改善を行っている。また、年2回は上司による個別面談時に意見や助言をもらい対応できるよう務めている	管理者は、普段から介護現場で職員との触れ合いが頻繁で、職員も遠慮なく話せる良好な環境にある。また、職員との面談等で、施設全体の士長や主任も来所し、気軽に声をかけてくれるなど良い雰囲気、職員も永く勤務したいと思うとの話も聞けた。また、散歩や外出自粛の法人方針には理解しており、当面は室内での支援に注力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回勤務評価を行い、それぞれの目標を評価すると共に、業務に対する考えや希望や疑問なども聞くようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で月1回の勉強会があり参加できない職員にはQRコードを利用した研修方法を利用し介護技術など見直しを行っている。法人内で統一されているマニュアル・ガイドラインに沿っての指導も行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の3グループホームで毎月会議をし、協力し取り組める事を相談している。運営推進会議には参加するようにしている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族さんや介護支援専門員などから事前に情報の聞き取りをし、本人さんや家族さんと面会し、希望などを聞きホームの雰囲気を見て頂き対応している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	お申込み頂く際には、ホームの見学をして頂きご家族さんの話を聞いている。問合わせ時にも聞き取りを行い相談を受けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望を聞き本人さんの状態を把握したうえで、必要に応じて他のサービスの提案をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で個々で出来ることは自身で行って頂き、自尊心を大切に安全に行って頂けるように付き添い声をかけて対応している。また、利用者さん同士でも助け合っておられる		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	申し込みや契約の段階で施設入ると思わず、お引越しをされたと考えて頂き出来る限り家族さんと交流が取れるように努めている。家族さんも何かあった際にはすぐに連絡が取れるよう対応して頂いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	携帯電話を持ち込み連絡をとったりコミュニケーションを図ることで出来ている。新しいご入居者とも昔の写真を見ながらお話しをし記憶を呼び起こし、会話をして過ごされている	家族や後見人(弁護士)が、面会や診療の同行のため来所する機会があったり、電話連絡で馴染みとの人間関係が継続できるよう職員が支援したりしている。現在は、自由に買い物に出かけたり、馴染みの店を訪れる機会がなくなっているが、事業所では家族が同行し、外食はしない条件で可能な限り外出してもらうよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の暮らしの中で、スタッフが間に入りながら利用者さん同士の交流を促しており、友好的な関係が築けている。気の合う方同士がフロアで自由に交流が持てるよう座席を配置するなどし雰囲気作りをしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	故人になられた方の葬儀に参列や退去後も気軽に施設に立ち寄って頂けるよう普段からコミュニケーションを取り信頼を得る事ができるよう配慮している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人さんの希望や、日々の何気ない発言から気持ちをくみ取ることに努め、気持ちの上でも寄り添うケアができるようスタッフで共有し対応している	共有スペースでは、利用者全員がそれぞれテーブルで、職員と一緒に昔のアルバムを見て懐かしがったり、職員手作りのパズルを楽しんだり、職員と一緒にベランダで洗濯物を取込んだり、昼食時には食前のテーブル拭きや食後の食器洗いを引き受けたりと各利用者ができること、したいことを行う日常生活の中でのリハビリテーション実践が観察できた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族さんの協力のもと生活歴を聞き取りその方が生きてきた歴史そのものをケアに活かす様に何気ない会話を通してご本人からも聞いている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自立した行動が行えるよう見守りおよび支援を行いながら、本人さんの能力の把握に努めている。また、表情や発言、行動を観察し、カルテに記載しスタッフ間で情報交換をして把握に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題が生じた段階でスタッフ間で情報を共有し、ケアの見直しを行っている。在宅医療部及び家族さんへの伝達や協力をお願いを行い、利用者さんが快適に生活できるよう状態に応じたケア方針を作成している	入所希望の利用者は在宅からのケースが多く、事業所でもそれを推奨している。入所に当たり管理者(兼、計画作成担当)が事業所や自宅で本人や家族と面談のうえ事業所が適切な施設かどうか判断し、他施設を勧める場合もある。入所が決まれば、作成した暫定計画書に沿い職員が寄り添い得た情報を加味し2週間程度で計画書を切替えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の中で見られた様子をカルテに記載するよう心がけ、詰所会議などでも資料として活用している。業務計画書などでも、情報の共有を行い介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者さんや家族さんの、その時その時の希望を受け止め、話し合いを密に行い可能な限りこたえられるよう努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まだ地域とのつながりは持っていないが、買い物などの希望はスタッフが対応し、嗜好品などを提供し、楽しく生活していただけるよう努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通いながれた地域の医療機関の利用を希望される場合は、家族さんの協力のもと継続して通院して頂いている。入居時に在宅医療を希望された方は、在宅医療と連携をとり、適切な医療を提供出来るように支援している	入居時に利用者・家族と相談し、全員が系列病院在宅医療部の内科医をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を受けている。歯科は、希望者のみ月1回の訪問診療がある。受診内容は医師から家族に説明し、受診内容申し送り表により職員間で共有している。従来のかかりつけ医(歯科、眼科)に家族または職員同行で受診している利用者もいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態を観察し、体調変化や急な事故などあった場合は、速やかに施設看護師及び在宅医療部へ報告し指示を仰いでいる。内容については必要に応じて家族さんにも報告し、理解・了承を得て適切な医療処置が受けられるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は電話などで利用者さんの状態について確認し、現場看護師などから情報収集に努めている。グループ内の病院は必要に応じて相談をして関係作りに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りについての説明をし、家族さんの意向を把握しその時期が近いと判断した場合は再度意向を確認し、利用者さんおよび家族さんが安心した穏やかに終末期を過ごせるよう支援している	入居時に重度化対応指針について利用者・家族に説明し意向を確認している。利用者が重度化の際、医師から状況を家族に説明し、看取り介護を希望の場合は同意書を得ている。年1回職員研修を行っているが、管理者が昨年9月に就任以来3名の看取りを行い、全員が看取りを経験している。本年8月104歳の利用者は家族・職員に見守られ意向に沿った看取りとなった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設の特養で行っている勉強会に参加し、看護師の指導を受けて応急対応を学んでいる。緊急時マニュアルを設定し周知している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設の特養で行っている火災予防訓練や避難訓練に参加している。今年度は市からの要請で一斉避難訓練を実施予定	年2回、避難訓練を併設の特別養護老人ホームと合同で行っている。通報連絡班、消火器班、避難誘導班と役割分担を明確にし、緊急連絡網も整備している。訓練記録は特別養護老人ホームに保管しているので、今年度からコピーを事業所にファイルすることとしている。備蓄は、水・食料品等を3日分用意し、栄養管理室が管理している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの性格や日々の過ごし方を理解したうえで、無理強いせず、傾聴し寄り添いながら、その人らしく暮らしていけるような声かけや支援を行うよう配慮している	接遇研修は、勉強会として併設施設と合同で行っているが、法人作成のユーチューブ動画により、職員各自の都合の良いときにスマホやパソコンで受講することができる。言葉かけには特に注意し、節度をもった言葉かけを行い、フロア会議でも話し合っている。個人情報関連書類は鍵のかかる書庫に保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まずはその方が「どうしたいか」を伺いそれに応える対応を行っている。訴えられない方については表情やしぐさを参考にし思いに応えるような支援を心がけている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	夜間は眠くなった時に休んでいただく、食事が進まなければ時間をおいたり好みのものを提供する。レクリエーションや軽作業に参加しなくてはならないなど、本人さんの希望を第一に考え支援を行っている。タイムスケジュールは細かく設定せず、1日のながれとして捉えスタッフにもゆとりをもたせて過ごせるよう務めている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容の声かけやケアを行っている。自身では困難な方については髪留めなどを使用し変化を楽しんで頂けるよう配慮している。男性は髭剃りなどの支援を行っている			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	下膳や皿洗いなど個々の能力に応じた作業をお願いしている。簡単なお菓子作りなどを実施し盛り付けなどは感染対策をしたうえで自身で行ったり、一緒に行ったりしている	併設施設の栄養管理室作成の献立を、法人の厨房で調理し提供している。レクリエーションとして炊飯器でスポンジ部分を作ったケーキにトッピングをしたり、ちくわ、チーズなど中身を工夫したたこ焼きなど、職員と一緒に楽しみながら行っている。また、お盆・テーブルをふく、食器を洗うなど、利用者は役割分担しながら準備と片付けを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食ごとに摂取量と水分量を合わせて記録している。摂取量が少ない方の食事形態を見直したり、家族さんが持参された副食やジュース類を提供し必要量が確保出来るよう工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者さんの状態にあった口腔ケアを毎食後実施している。必要に応じて歯科往診による口腔ケアを実施している。歯科衛生士には月1回歯ブラシの使用・ガーゼで拭き取りなど口腔衛生管理についてのアドバイスを受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別で排泄パターンを把握し、適宜トイレの使用を声かけや誘導を行っている。自立困難で座位の取れる方に関しては定時のトイレ誘導にて排泄介助を行っている。排泄用具は個々に適したものを使用している	おむつは、夜間のみ1名が使用しているが、その他の利用者はリハビリパンツにパッドを使用している。トイレには「便が出たらこのカードを職員に渡してください」の貼り紙があり、排便確認に配慮している。排泄改善委員を担当する職員がおり、見守りとタイミングの良いトイレ誘導により、パッドの使用枚数を減らすことができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の水分摂取はこまめに提供している。朝食時にはヨーグルトなど便通に良いとされるものやマッサージ・体操などを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2～3回の入浴日を設定しているが、拒否の強い方や湯船につかるのを嫌がる方に関しては、無理強いせずシャワー浴などで対応している。それでも清潔が保持できない場合は家族さんに協力して頂き自宅での入浴やスタッフを交代するなどして支援している	入浴日は週2・3回の午前・午後としているが、できる限り利用者の意向に沿うようにしている。浴槽の縁をまたがず椅子感覚で移乗して入浴できるボランテ浴槽を設置し利用者・職員ともに負担なく入浴できる。耳に水が入ると入浴拒否をする利用者が1名おり、耳カバーを付けたり、家族による実家での入浴や仲良しの利用者との入浴など工夫を凝らした入浴支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のリズムで就寝・起床していただいている。日中ウトウトされていれば適宜臥床時間を設け、身体的に負担の無いよう配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	在宅医療部の指導のもと適切な服薬支援が出来るよう努めている。服薬の変更があれば一定期間状態観察を行い報告を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌が好きな方には口ずさんでいただけるよう懐メロなどのDVDを見て頂いたり、書き物が好きな方には、メモ帳やマジックを用意したり、読書も楽しめるようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出を控えているため家族さんと相談して行動制限などがありますが戸外に出かけられるよう支援している。地域のお祭りには地域の方に協力いただき出かけることができる。	日常的には広いベランダに出て、花の水やりや洗濯物を干す・取り入れるなど外気浴にとどまっている。個別対応では、敷地内のつつじ見物や周辺散歩を行っている。11月には併設施設と合同の事業所の秋祭りに参加予定であるので、状況を見ながら外出イベントを検討中である。	コロナ禍前には、買い物や喫茶店に出かけたり、看護師・家族も参加の花見や系列施設と合同の遠足などを行っていた。一年中で最もよい季節であり、感染対策に気を付けながら利用者・家族、職員皆で楽しめる外出イベントの実現を期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族さんへの説明を行い、理解して頂いている方には、自身で管理をして頂いている。自身で管理できない方は施設で預かり金銭出納帳にて管理をしている。買い物に出かけることはまだできていないためスタッフが対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい等のご希望があった場合は携帯電話や固定電話にてかけて頂けるように援助している。また、手紙もご希望があれば書いていただき、ポストに投函の支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月利用者さんと一緒に壁画作りを行い、その時々にあったものを展示している。温度や明るさ、テレビや音楽の音はなどはその都度、調整・設定している	居間兼食堂は明るくゆったりとしており、周回できるバルコニーと西側には広いベランダがあり、風通し良くさわやかである。天井にはハロウィンの吊り下げ飾りが風に揺れ、壁面には手作りの紅葉の木・カレンダーがある。清掃専門職員が毎日清掃し、居心地よく過ごせる共用空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室以外でもゆっくりとご自身のペースで過ごせるように、ソファなどを配置している。自身で移動し過ごされる方だけでなく、意思疎通が難しい方も、表情やしぐさなどを観察し、介助にて場所を変えて過ごして頂いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族さんと相談して、馴染みのものや寝具なども持参して頂いたり、必要な方には、テレビも設置して頂いている。また、一人ひとりの生活スタイルや、身体的能力に合わせてベッドの位置や、高さ等の調整もしている	居室入り口には、うさぎのイラストの中に利用者の顔写真と名前を書いた表札があり、14.88㎡と広めの居室に洗面台、ベッド、エアコン、ロッカー、椅子、防災カーテン、換気扇が備え付けてある。壁面には手作り作品や家族写真を飾り、テレビ、雑誌、家族が持参した町内会便りなどがあり、居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札などは見やすく大きくし、食席などいつも使われている場所は、歩行が不安定な方や、車いすの方も、自身で着席出来るように居室の近くや、移動しやすい場所に設定している		